生命（いのち）

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

1、 家族は寝静まり　今夜も一人で
ベッドで泣いてる　わずかな俺がいた
たまらず階段　駆け下り台所で
包丁掴んで　腹を見つめた

死んでしまったなら…
死んでしまったなら…

だけど　刺せないのは　怖いこともあるが
落ちる母の涙　それが尊い

２、「今の若い子はその道を通らないから
経験してるあなたは正常」　とあなたは言うけど
苦しむくらいなら　そんなもの　いらないから
幸せをくれ！　楽しさをくれ！　いったい　もうどうすりゃいいんだ！

死んでしまったなら…
死んでしまったなら…

だけど　届かないのは　今日がたまたまにも
長崎の原爆の日で　愛を想った

だけど　生きゆくのは　せめて１日でも
頑張ってみて　やっぱり　駄目ならば
死んでしまえば　と…

死んでしまえば　と…

死んでしまえば　と…

暗闇の笑顔

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

１、涙がこぼれる　想い出してしまう
悲惨な別れ　どうにもできないこと
幸せだった　それだけのこと
あなたは　今　どうしてる？　なにをしているのさ？
Uh-　僕に笑ってくれないか？
Uh-　君ならしてくれるだろう？
Uh-　この心のすむまで
Uh-　生きてみる

２、神様が定めたこと　運命で決まっている
そう思ってしまえば　楽になるな
恋愛だけじゃない　この世は定められてる
それでも厳しい道があって　わかっていながら拝む
Uh-　愛を語ってほしいんだ
Uh-　愛こそすべてなんだよね？
Uh-　ちゃんと意味がわかるように
Uh-　教えてくれ

Uh-　愛と神は似ているのか？
Uh-　運命は　やっぱり　あるのかい？
Uh-　いつ　いつまでも
Uh-　探してみる

俺だけの夢

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

１、窓を開け　外を眺めてた　なんとなく
空を見上げたら　ちょっとだけ　気持ちが明るくなれた
今日もまた　生きてる意味につまずいた
いったい　いつになったら　幸せと呼べる日が来るのだろう？

生きている意味　闘う心　嘘のない牙　支えあう２人
愛し貫き　憎み感じて　そんな涙の生き様　WOO

何を感じて　ぶつかりながら　励まし合って　呼吸を揃え
ぼくらは辿る　この世の中を　超えていかなきゃならない　WOO

2、もう２度と　あの頃には戻れない
懐かしい校舎の傍を通る時　ちょっとやるせなくて

走ってくこと　守るべきもの　探してる愛　揺るぎない声
いつかすぎたら　忘れ去られてしまうかもしれないけど　WOO
それでもいいよ　そんなのいいさ　死んだ後など考えてない
今をどうする？　最期の瞬間（とき）に後悔はしたくないから　WOO

くたびれた身体　投げ出しながら　テレビをつけて　くつろいでいる
時の流れに逆らいながら 違う答え見つけたい　WOO
俺はとにかく　唄を唄って　顔をしかめて　喉を枯らして
生きていきたい　誰かのために　この魂（いのち）を伝えたい　WOO

家出　～旅人～

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

1、心　体　凍えてゆき　震えながら
一人じゃ　生きれぬことを知る　暗い夜の墓場で
瞳に涙を隠して　道を歩き
夜中に働く人を見て　何が答えだと　愚痴った

幸せ顔で　生きている人
苦しみ顔で　生きている人
そして　何故　孤独な旅に　出たのか？

燃え上がれ　愛の悲しみよ　いつまでも　空に羽ばたけ
憎しみが　愛の数えだから　俺は路地を下りた

2、ため息ひとつ　家に帰り　窓を開けて
ここで泣いてるヒマはないと　遠い空を睨んだ

幸せ顔で　死んでいく人
苦しみ顔で　死んでいく人
俺はどんな顔で　死んでいくのか？

突き破れ　世の険しさなど　闇雲に自分を貫け
何者かが悪くけなそうとも　超えてゆきたい

新しい旅の始まりだ　潔く海に飛び込め　（でも）
闘いは　ずっと続くだろう
生きてしまう限り…
生きてしまう限り…
生きてしまう限り…

自分探しの旅に行こうじゃねえか

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

自分探しの旅に行こうじゃねえか　意味がよくわからない
裸になって己を見つめよう　目的なんかいらない

１、俺は東京のど真ん中に生まれ　わがままばかりを貫いている
誰の指図も受けてたまるかと　自分勝手にやっている

それでも　心が病むのは　なぜだろう？
どうやって生きても　上手くいかない

さあ　心を割って話をしてみよう　優しさが生まれる
ゆく当てのない道を歩いてみよう　出逢いが始まる
枯葉に　雑草　土の匂い　別に感動しないけど
遠くの空を見つめながら　約束を果たそう

２、将来という漢字２文字が　すれた心の奥歯にひっかかる
金が要る　ちきしょう　くそったれ　働かなきゃ　いけないのか？

人生の落伍者になっちまったほうが　楽かもしれない
なんとか　自分を　変えてゆかねば

なら　少年の頃を思い出そう　愉快なあの頃

柔和な瞳で探し続けたモノ　それが答えだと
割れた結晶のような礫（つぶて）拾い　川へと投げ捨てた

光をただ見つめながら　愛の河をわたろう

清水のおじいちゃんの唄

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

１、父親と２人して　静岡・清水にやってきました
おばさん達は　温かく　自分を迎えてくれました
お昼ご飯は　おばあちゃんから　お寿司をごちそうになりました
清らかに　優しく　僕に話をしてくれました

俺は旅人　俺は貧弱な旅人
帰り際　９年前　亡くなられた
額縁の　勇ましさに
深く　お辞儀をしました

おじいちゃんは　なにげなく　少し　微笑み
大きくなったねと　軽く笑いかけてくれました

２、お焼香をあげながら　目を瞑って
もう一度　祈りました
言葉はないけど　ただただ　誓いました

俺は旅人　俺は貧弱な旅人
何もかも　見失っちまった　今
これから　どうやって　生きてゆけばいいの？

夕焼けを背にしながら　川を渡り

筏船を眺めながら　彼女の言葉を唄いました

想い出が愛ならば　きっと嬉しい

潮風に吹かれながら　激しい涙の風を嫌いました

ただただ　真実だけを　睨みました

深沢のおじいちゃんの唄

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

１、病院のベッドの上で　おじいちゃんが微笑んだ
89 年　生き続けて　僕の生えたヒゲを見て笑ってる

「若いうちになんでもやっておきなさい」と
遠い　あの日　教わった
突き刺さる　話しを聞くのが
たまらなく　好きだった
本当に　全然　迷惑じゃ　ありませんから

頼みます　ずっと　生き続けてください
一緒に　過ごせる時間が楽しい
優しくて　勇ましい　心が　消えてしまったら

俺は　もう　やりきれない！

２、血の色をした　おしっこが　管の中にたまってる
だけど「トイレに行かなくて便利だ」と　聞いて
もう　たまらなくなって　目に涙　こらえてた

譲り　いただいた　意志の強い眉毛
頑固者で　かまわない！
「またお話を聞かせてください」と　言ったら
「悪口ならいつでも聞かせるよ」と　しゃべってた

涙なんて　流したくはなかった

わかっていた　もう　その時が来ること

永遠に　生きられないのが　人間なのなら

それは　それで　仕方ない

ずっと　いつまでも　大好きです！

さらば青春の松丘小学校

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

１、赤は愛の色　青は空の色
色は色々　楽しいね
下駄箱　校庭　教室　屋上
夢をいろいろ　語ったね

揺れる校舎に　夕陽が燃える
さらば青春の松丘小学校

２、白い雪が降る　紫の長靴
靴跡は道程　振り返る
入学　卒業　出会いと　別れ
今が思い出とは　わからない

今も変わらずに　存在している

懐かしい　あの頃の　フォトグラフ　そのままに…

友も　好きな子も　忘れることなく

ずっと　永遠に　残ってく　幻影を…

唄いたかったから

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

僕は唄いたかったから　ただそれだけだったから
唄っているのさ　理屈なんてない
ああ　これは夢じゃない　それは重荷になるから
違うことにしてる　それでいいと思う

１、詩もロクに書けない　曲もあまり浮かばない
部屋の傍らに　CD と　ギターが　あるから唄うだけ
少しは上達してるけど　たぶん　これは趣味さ
プロになりたいだなんて　気持ちは少しもない

と言って　逃げてばかりいる　それが　気楽だったから

闘うことを避けてる　弱さがある

それは間違っていた　生きがいに思えてきたんだ

楽しい　この戦に　すべてを懸けてみたい

２、生きる意味は何さ？　なにかにとってでもいいから
それがミュージシャンだと　使命のように感じるから
成功のパズルだけときたい　それも　どうでもいいや
哲学的に考えると　前に進めなくなる

あのね　だれかの曲とか　テレビのだれかのトークとか
どうでもいいのさ　答えは充実さ
ステージも　まだ怖いし　業界にツテもないし
隠れていたいけれど　それじゃ夢は叶わない

今は　とにかく詩（うた）を書け　自分には言葉しかないから
やりたいことを　仕事にするだけさ
そう　答えはシンプルさ　横に眠っているのさ
答えは　わからないけれど　俺は野性を放つ

君を愛している

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

１、初めて出会った日は　ほんとう　とてもかわいくて
　　愛の話しに笑った
　　次に会った時　あなた風邪をひいていた
　　なにか　かわいそうに想った

　　君を愛している　君を愛している
　　ずっと　傍にいて　欲しんだ
　　WOO　WOO　いつまでも

２、やがて２人で　女性シンガーのライブに行った
　　京タコ屋のたこ焼きを　持ち込んで

　　そして　ボクは踊り　キミはおどけていた

　　たぶん　それも　間違いじゃないだろう

　　そう　思う　あの頃を

　　会えない時間が　本当に辛くて
　　心が痛くて　会いたくて　会いたくて…　Uh-

　　君を感じたまま　君を離したくはない
　　離れ離れに　なったけれども
　　WOO　WOO　忘れない
　　WOO　WOO　約束の
　　WOO　WOO　かけはしさ

さよならアーコ　～天国でリッツが待っているよ～

作詞　岡本　悠／作曲　岡本　悠

犬のアーコ『さくら』が先日、死にました。
とても悲しい事でした。
父親と添い寝した深夜頃、
そっと息を引き取りました。

翌朝、母から電話がかかってきました。
僕はその日、仕事を休み実家に帰りました。

花に囲まれ、目を閉じ、横たわる、姿を見て、
少しだけ僕も泣きました。

１７年という歳月を生き抜きました。
父は「今頃、天国でリッツに会っているかな。」
と言いました。
僕も「そうだよね、今、会っているかもね」と答えて、
温かく、優しい気持ちになれました。

翌日、保健所さんの車がやってきました。
かけつけた姉は、思い出のちゃんちゃんこをかけました。
アーコを乗せた車が坂を下りる最後の瞬間に、
母も姉も僕も泣きました。

思い出など書ききれない程、
おてんばでかわいい娘（こ）でした。
ピンク色のリボンがとても印象的で、
いつも家の中に入ろうとしていました。

アーコが亡くなる前日、
僕はたまたま実家に電話をしました。
受話器の向こうでアーコが鳴いていました。
何か運命的な物を感じました。

＊当日、海外で仕事していた兄も、たくさんの思いでいっぱいかな。

※リッツ（前に飼っていたオス）（アーコはメス）（共に芝犬）